

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	19 - デ学 - 2
-----------------	-------------

## 平成19年度配分 研究成果の概要

研究名	学部長特別研究 「日本美を婚礼儀式の中に再構築する」 (学園空間におけるデザイン婚の提案)				
配分を受けた特別研究費	デザイン学部長 特別研究費 2,855千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	デザイン学部	空間造形学科	准教授	横山 稔	総括
共同研究者	デザイン学部	生産造形学科	教授	佐井 国夫	会計
	デザイン学部	生産造形学科	教授	三好 泉	協力
	デザイン学部	メディア造形学科	教授	宮内 博実	協力
	デザイン学部	メディア造形学科	教授	古田 祐司	協力
	文化政策学部	国際文化学科	教授	須田 悦生	協力
	文化政策学部	芸術文化学科	准教授	谷川 真美	協力
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要			号 数	第 号 ( 年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:日本デザイン学会			発表日 (発表予定日)	平成20年11月22日
	3 その他 発表の方法: メディアアートフェスティバル 2007 SUAC 公開講座 もてなしの文化学Ⅱ 第5回 SUAC 交流サロン デザイン学部 情報交換会 国立民俗博物館			発表日 (発表 予定日)	平成19年8月2~5日 平成19年10月27日 平成19年11月21日 平成20年7月24日 (平成21年8月~)

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

#### (研究の目的等)

儀式の中に伝統的な日本美を導入・研究し、現代人が納得し楽しみながら学び、伝承していける新しい儀式の形式を再構築(現代的解釈に基づくデザイン)する。

本研究では「結婚」をテーマとし、学園内空間を用いた「結婚」にまつわる一連の「儀式」を総合的に提案する。

#### (研究の実施方法等)

日本人は生れてから死ぬまでの間に様々な儀式とともに生きている。その儀式は日本文化の一端であり日本美を形成してきた。しかし、儀式の形式的な解釈が現代の日常生活とかけ離れる事になって、伝統的な儀式が忘れられ、現代人が伝統美を感じなくなっている。儀式の空間とその演出(装飾・儀式手順など)の中に日本文化としての日本美を確認し、それを現代的な形で現代人が納得できる形に再構築する必要がある。商業主義的な儀式とは一線を画した、品格のあるアカデミックなデザインアプローチとする。

#### (実施内容)

- 1・調査 婚礼の実態調査(形式、規模等)、儀式の意味の理解
- 2・計画 学園内における婚礼儀式の計画
- 3・実施 学園内における結婚式の実施
- 4・確認 評価と学園内結婚式の事業的可能性の検討

平成19年度は、平成18年度に調査研究した結果をふまえ、実施を中心に進めた。具体的には、メディアアートフェスティバル 2007・SUAC 公開講座 もてなしの文化学Ⅱ・第5回 SUAC 交流サロン・記録映像と写真を収録編集、デザイン学部 情報交換会にて成果発表などを行った。

#### (得られた成果等)

- 1・学生とともにテーマを考え、若者に「結婚」を創造的な日本のデザインとして身近に感じてもらう。  
生活の中で日常性と非日常性の日本の美をとらえる
- 2・話題性、産学官連携へのきっかけづくり
- 3・新規事業性の検討(地域及び大学への経済効果のある文化産業としての取組)

平成19年度は、メディアアートフェスティバル 2007にて平成18年度に製作した貝合茶碗と茶室 1/3 模型を展示、SUAC 公開講座 もてなしの文化学Ⅱでの口頭発表、第5回 SUAC 交流サロンにて貝合菓子を大学内の茶室にて発表。

平成18年度に模型で検討した茶室フレームの実寸大を製作し、本学講堂にて学生に新郎新婦・両親役を演じてもらい、茶婚礼の儀式デモンストレーションを実際に行い、動画と静止画を撮影し編集したものをDVDの成果品としてまとめた。